

# ★明日を

## ひらく言葉

まな  
学<sup>び</sup>て然<sup>しか</sup>る後<sup>のち</sup>  
足<sup>た</sup>らざるを知る  
『礼記』



伊與田覚先生と

4月17日、致知出版社主催の「人物を創る人間学」講座が開催された。講師は、伊與田覚（いよた・さとる）先生。先生は、大正5年高知県に生まれる。学生時代から安岡正篤氏に師事。

その後、四書五経を始め東洋思想を学び続け、昭和44年には成人教学研究所を設立し、学監としての論語精神の昂揚に尽力する。

今年93歳。7歳から86年間四書五経を何度も学び続けてこられた。約3時間、立ったまま背筋をピンと伸ばし、粛々と話される姿は、20歳はお若く感じられる。

冒頭、致知出版社の藤尾社長は、「長年にわたり、聖賢の学に親しんでこられた人独特の風格、風韻がある。完熟の域に達し、教えに香りがある。」と先生を紹介されていました。

今回は、総論的なお話でしたが、先生自ら最後に「学びて然る後、足らざるを知る」と語っていました。

「何十年も学び続け、学べば学ぶほど足らざるを知り、足らざるがゆえに学ぶ意欲がわいてくる。」と。

そして、最初は、毫り（ごうり）きわめて少ない分量）の差であっても、進むべき方向が違えば、千里の誤りになるといふ。

講義終了後、名刺交換をさせていただきました。大きくて深くて静かな方で、まさしく聖賢の学に親しんでこられた人独特の風格というようなものを感じました。

あらためて、人として進むべき道を正しくし、先生に一步でも近づけるよう勉強していきたいと思えます。